

## 【 ご使用方法 】

- ①作成したデータを「Customer\_data」レイヤーに貼付け  
※「template」レイヤーの変更・消去は絶対にしないでください
- ②【チェックシート】を確認し、別名保存（形式：Ai）  
※別名保存の際、必ず「PDF互換ファイルを作成」と「ICCプロファイルを埋め込む」のチェックを外して保存をお願いします
- ③Aiデータ、画像データ、確認用データ（Aiデータのキャプチャ画像）を1つのフォルダに入れて圧縮→メールにて送付

## 【 チェックシート 】

- ☐ カラーモードはCMYKですか？  
メニューバーの「ファイル」→「ドキュメントのカラーモード」→「CMYKカラー」
- ☐ 塗足し線まで作成されていますか？  
背景の写真や絵柄などは、必ず塗足し線までレイアウトしてください。  
仕上り編みリギリまたは少し内側にレイアウトされますと、断裁時の誤差などで生地周囲に白地が発生する場合がございます。
- ☐ 画像の解像度は150dpi以上ですか？  
画像は実寸で解像度150dpi以上を推奨しております。解像度が低いと粗く出力されます。  
画像は埋め込まないでリンク配置し、リンク画像は必ずこのAiデータと一緒に送ってください。
- ☐ 画像の画質は大丈夫ですか？  
1/10サイズのフォーマットの場合、画面全下のズームレベルを「1000%」にしますと、実寸に近いサイズで画質確認が可能です。問題がないかご確認ください。
- ☐ 複雑なパス、パターンスウォッチ、ぼかし、ドロップシャドウは画像化されていますか？  
まず以下①でドキュメントの解像度を上げていただき、②で画像化してください。  
（※一度画像化されると元に戻せませんので、元のAiデータをコピーし作業することを推奨いたします）  
①メニューバー「効果」→「ドキュメントのラスタライズ効果設定」→「解像度 その他」から1200ppiで設定  
→「背景」は透明を選択→「オプション」のチェックをすべて外す→OK  
②複雑なイラスト・図、パターンスウォッチは  
該当のオブジェクトを選択→メニューバー「オブジェクト」→「ラスタライズ」  
→「解像度 その他」から1200ppiで設定→「背景」は透明を選択  
→「オプション」のアンチエイリアスはアートに最適を選択、チェックをすべて外す→OK  
ぼかし、ドロップシャドウは  
該当のオブジェクトを選択→メニューバー「オブジェクト」→「アピアランスを分割」
- ☐ オーバープリントになっていませんか？  
オーバープリントになっている文字やイラストは印刷時、非表示になり出力されませんのでご注意ください。
- ☐ フォントはアウトライン化していますか？  
メニューバー「オブジェクト」→「すべてをロック解除」→すべての文字を選択し、メニューバー「書式」から「アウトラインを作成」
- ☐ 対応アプリケーション：2020(v24.0.3)以下で作成していますか？  
Illustrator 2020(v24.0.3)以上の最新バージョンにて作成されている方は、バージョンを2020(v24.0.3)またはそれ以下に下げて保存してください。
- ☐ 確認用データはありますか？  
リンク画像や効果が正しく反映されているか確認いたしますのでキャプチャ画像を必ず一緒にご入稿ください。

- ☐ 水色線…仕上り寸
- ☐ 黒線 …塗足し線
- ☐ 点線 …安全線（※文字の配置は点線まで）

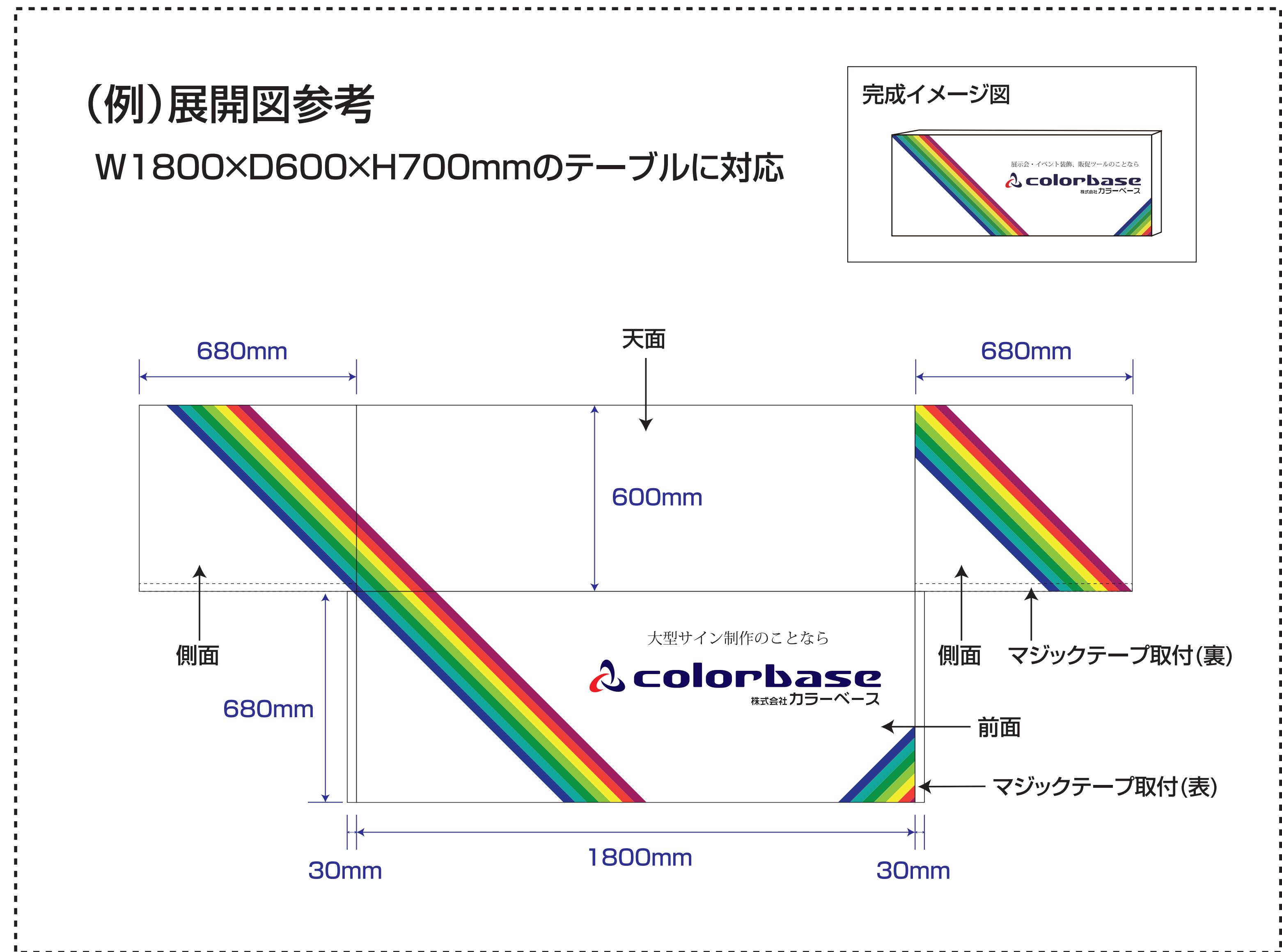
※BOXタイプは縫製がないため安全線の必要はありません。

※ジャストサイズだと少し丈が長くなるため、20mmほど丈を短くしております。

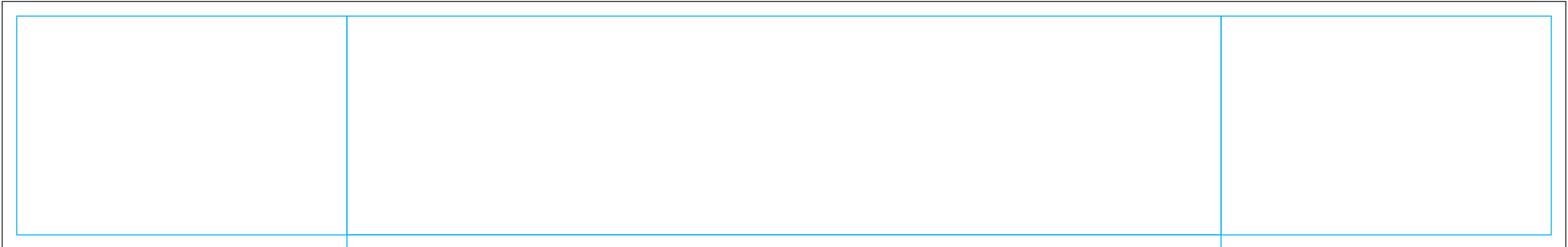
## BOXタイプ（生地：ターポリン） W1800×H700mm

### （例）展開図参考

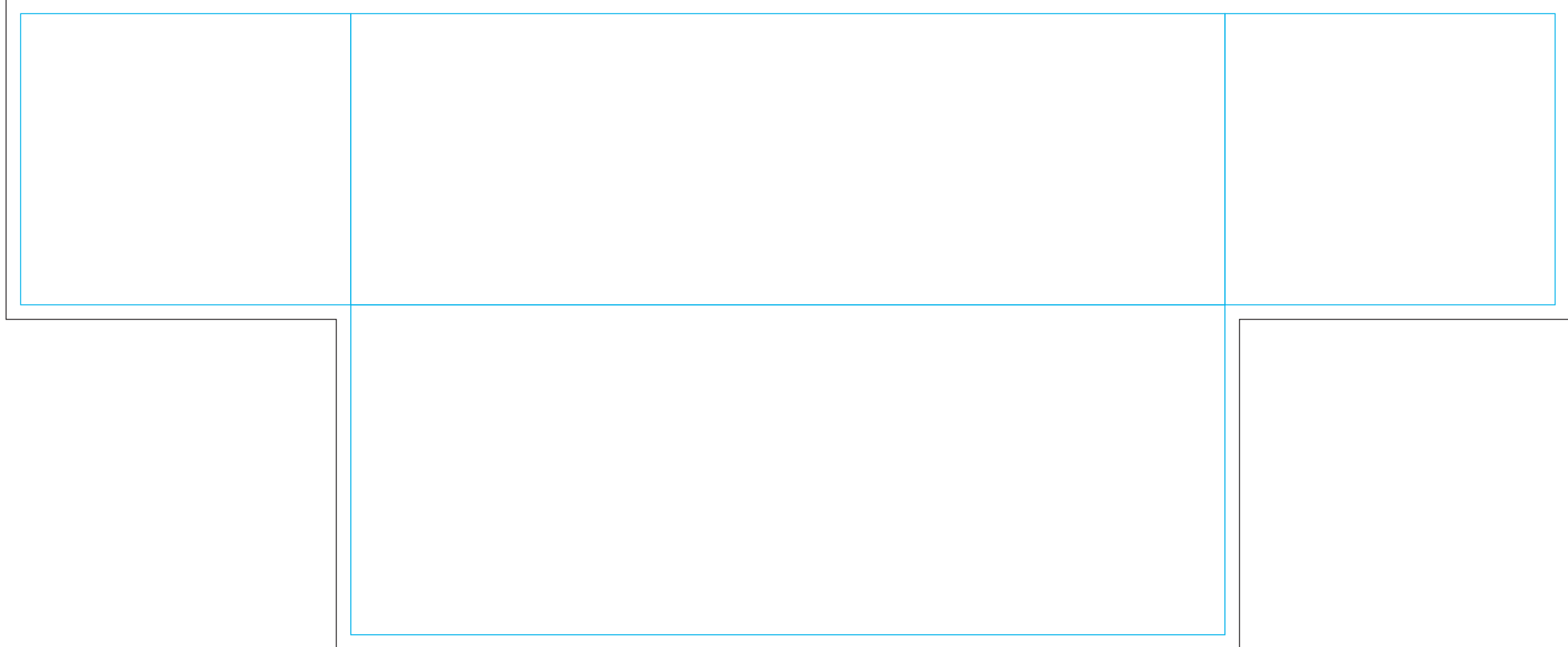
W1800×D600×H700mmのテーブルに対応



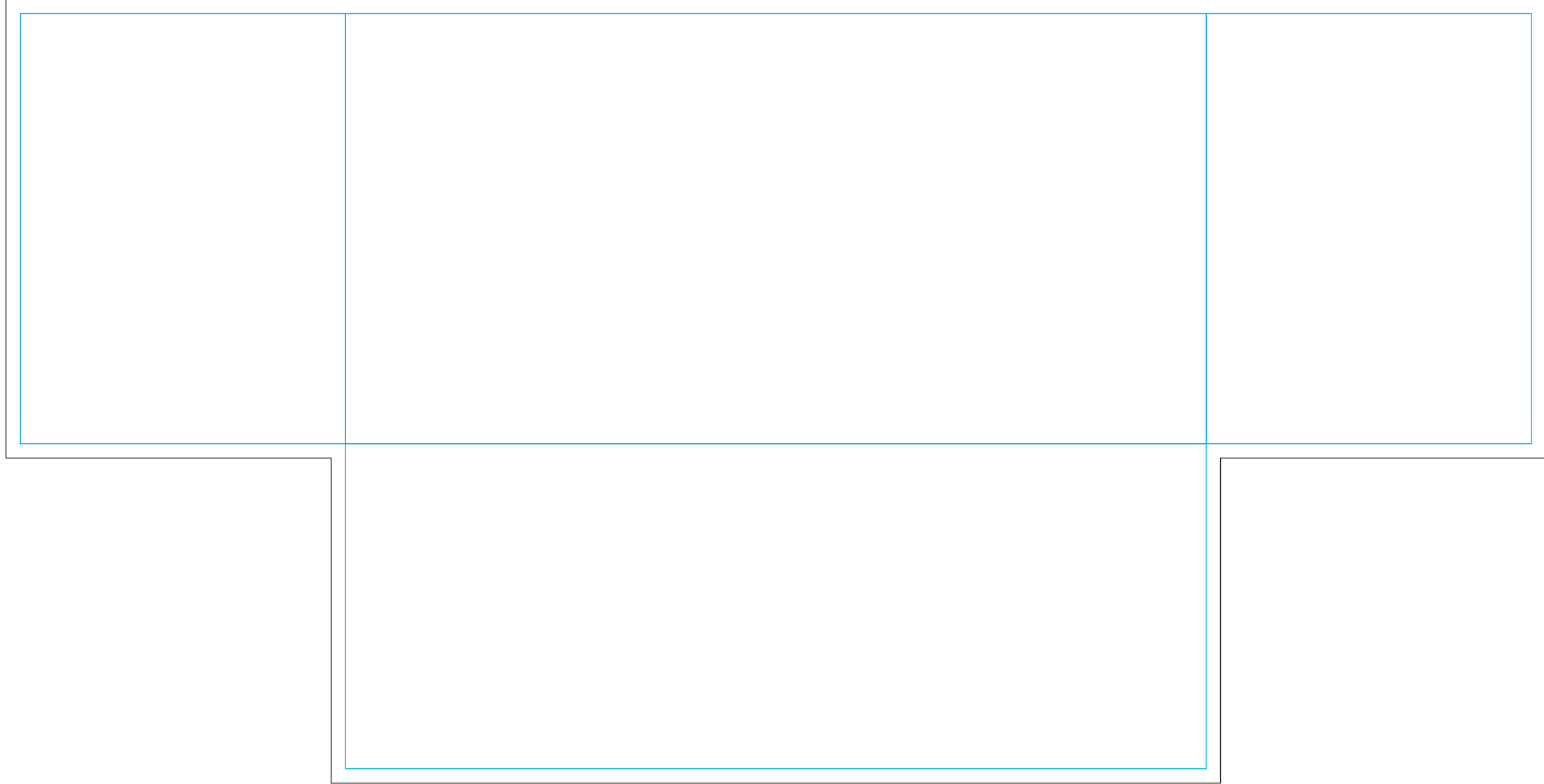
### D450



### D600



### D900



## フラットタイプ（生地：スエード、1枚布）

### ■フラットタイプ(1枚物)

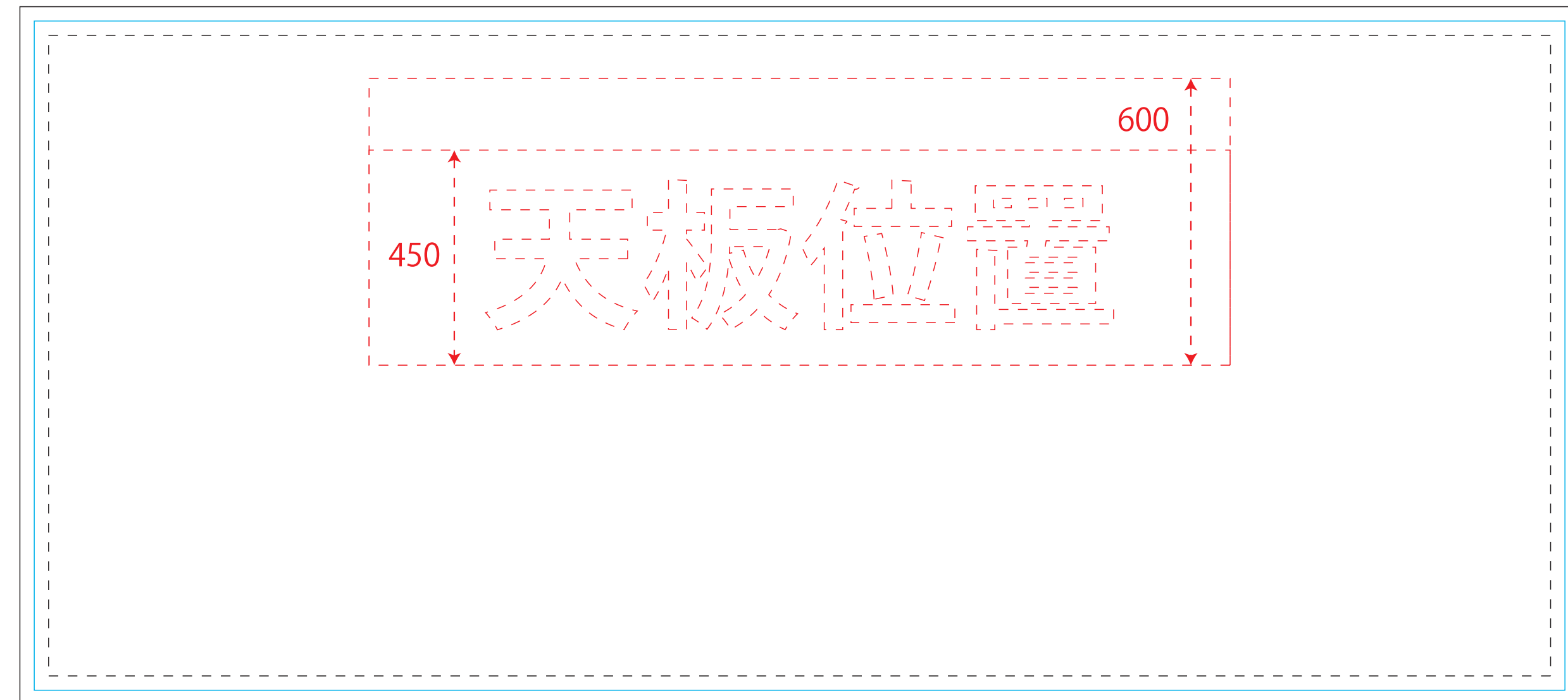
垂れ下がった部分の角をストッパー（又はピンや画鋏など）で止めていただければBOX型クロスにもなります。



### D450・D600

(仕上がり寸：W3200×H1400mm)

※赤点線は天板位置の目安です。実際には出力されませんのでご注意ください。



### D900

(仕上がり寸：W3800×H1700mm)

※赤点線は天板位置の目安です。実際には出力されませんのでご注意ください。

